

PGT-A/-SR の実施報告書についてよくあるお問い合わせ内容についての Q&A

Q. 「(1). 新規同意書取得数」にはどのような症例が含まれますか？

A. 「(1). 新規同意書取得数」とは、報告対象となる 1 年間の間に新たに PGT-A/-SR 実施の同意を取得した数となります。以前の年に同意書を取得済みで当該年に検査を実施した場合は、以前の年の新規同意書取得数には含まれますが、当該年の数には含めないようにしてください。

Q. PGT-A の適応として女性年齢が追加となりましたが、複数の適応を満たす場合にはどのように記載すればよいですか？

A. 複数の適応を満たす場合は、該当するすべての適応を選択してください。
たとえば、女性年齢と反復不成功の両方を満たす場合、同意書取得数としては 1 例ですが、適応としては「女性年齢」「反復不成功」の両方に 1 例として記載します。
そのため、同意書取得総数と、各適応症例数の合計が一致しなくても問題ありません。

Q. 採卵や胚盤胞の数に応じて PGT-A/-SR を行うかどうかを決める予定でしたが、

結果として PGT-A を行わなかった採卵周期は「(2). 採卵周期数」に含まれますか？

A. 採卵自体がうまくいかなかった周期、採卵は行ったが PGT を実施する胚盤胞が得られなかった周期については、「(2). 採卵周期数」には含めない形で記載してください。

Q. 採卵、胚生検、検査提出が年をまたいで異なる年に行われた場合（凍結胚再融解での生検の場合など含めて）はどのように報告すればよいでしょうか？

A. 全て実際に当概年に行った数を記載してください。つまり、当該年に採卵を行い、生検や PGT-A の検査実施が翌年以降になった場合には、採卵やそこから得られた胚盤胞総数については当該年の「(2). 採卵周期数」と「(3). (2) で得られた胚盤胞総数」の数にそれぞれ含まれます。一方 (4) 以降の項目はその分は翌年以降にそれが実際に行われた年の報告に入る形となります。

Q. 「(4). 生検胚数」とは、実際に生検した胚の数ですか、予定した数ですか？

A. 予定数ではなく実際に生検した胚の数をご記載下さい。

Q. 以前の年に採卵、PGT-A を実施した胚を当概年に移植した場合は「(7). 胚移植周期数」に含まれますか？

A. 採卵時期、検査時期がいつであるかとは無関係に、当該年に PGT-A 実施胚を移植した周期数が全て含まれます。

Q. PGT-A を実施した胚と、実施していない胚を合わせて移植した場合は、「(7). 胚移植周期数」に含まれますか？

A. PGT-A を実施した胚が一つ以上含まれている場合には、「(7). 胚移植周期数」に含めてください。

Q. (8)–(13) の項目の胚移植後の転帰の報告の対象はいつの胚移植を実施した症例ですか？

A. 胚移植後の転帰に関する (8)–(13) の項目は、報告対象となっている年に胚移植が行われた症例全体が報告対象です。つまり「(7). 胚移植周期数」で記載した症例が報告対象となります。

PGT-A/-SR の実施報告書についてよくあるお問い合わせ内容についての Q&A

Q. 「(8). (7)のうち妊娠症例数 (hCG 陽性)」の陽性とする hCG の基準値はいくつでしょうか?

A. 各施設で、hCG の測定法が異なるため、一定の基準は設けておりません。ご施設において、診療上陽性（生化学的妊娠）と判断する値に照らして陽性と判断された症例数をご記載ください。